

<<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>>

26 農試病防第 27828-6 号
平成 27 年 2 月 24 日

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長
(公 印 省 略)

平成 26 年度病害虫発生予察注意報第 6 号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

平成 26 年度 病害虫発生予察注意報 第 6 号

1. 病害虫名 : ニンニク春腐病
2. 対象作物 : ニンニク
3. 発生が予想される地域 : 県下全域
4. 発生程度 : 多
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 2 月下旬に実施した発生調査では、発生圃場率は 33.3% (平年 : 8.6%)、発病株率は 0.6% (平年 : 0.3%) であり、発生量が多い状況であった (第 1 表)。
 - 2) 12 月～2 月にかけて断続的に強風雨があり、感染に好適な条件であった。今後の気象は降水量が平年並か多い、気温が平年並か高い予報であり、春腐病の発生に助長的であるため、さらに蔓延するおそれがある。

第 1 表 ニンニク春腐病の年次別発生状況

調査年	発生圃場率 (%)			発生圃場の発病株率 (%)		
	2 月下旬	3 月下旬	4 月下旬	2 月下旬	3 月下旬	4 月下旬
2005	7.7	8.3	25.0	0.5	1.0	0.7
2006	0	11.1	38.9		0.6	1.7
2007	5.6	7.7	17.6	0.5	0.1	0.7
2008	0.0	0.0	33.3			1.0
2009	5.6	38.9	33.3	0.1	3.6	1.2
2010	0	10.5	93.8		1.3	7.9
2011	0	16.7	55.6		0.8	2.7
2012	27.8	55.6	88.9	0.2	1.0	12.0
2013	33.3	38.9	88.9	0.4	5.0	4.2
2014	5.6	61.1	72.2	0.1	0.8	7.4
2015	33.3			0.6		
平年値	8.6	24.9	54.8	0.3	1.6	4.0

6. 防除対策

- 1) 発生圃場では、7～10 日間隔で薬剤防除を行う。連作圃場や、湿潤な天候が続く急増が予想される場合には、抗生物質剤を主体に 5～7 日間隔で防除を行う。散布回数が多くなることから、各薬剤の使用回数及び収穫前日数を遵守する (第 2 表)。
- 2) 病原菌は茎葉の傷口から侵入するので、強風雨や農作業の前には防除を行うとともに、ネギアザミウマなど害虫防除を行う。

- 3) 伝染源となる腐敗株を早期に抜取り、圃場外に持ち出すなど適正に処分する。
- 4) 排水不良は発病を助長するので、明渠などによって排水対策を徹底する。
- 5) 窒素質肥料の過不足を避ける。
- 6) 同一の病原菌によって発生する**タマネギ腐敗病**にも注意する。

第2表 ニンニク春腐病の防除薬剤（香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針より抜粋）

薬剤名	成分名（系統名）	希釈倍数等	使用時期／回数
コサイド3000	無機銅	2,000倍	—／—
Zボルドー	無機銅	500倍	—／—
ICボルドー66D	無機銅	50倍	—／—
バリダシン液剤5	バリダマイシン（抗生物質）	800倍	7／5
キンセット水和剤80	無機銅＋有機銅	1,000倍	7／5
カスミンボルドー	カスガマイシン（抗生物質）＋無機銅	1,000倍	7／5
カッパーシン水和剤	カスガマイシン（抗生物質）＋無機銅	1,000倍	7／5
ナレート水和剤	オキシリニック酸＋有機銅	1,000倍	7／2
カセット水和剤	オキシリニック酸＋カスガマイシン（抗生物質）	1,000倍	7／2
アグリマイシンー100	オキシテトラサイクリン（抗生物質）＋ストレプトマイシン（抗生物質）	1,000倍	7／3



写真1 葉身に感染した水浸状病斑

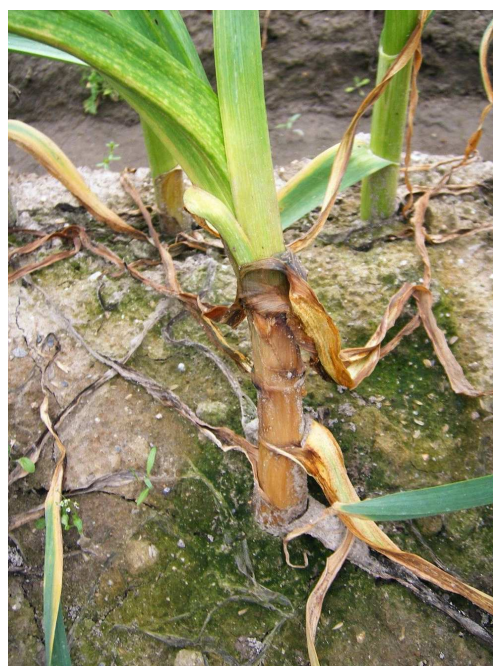


写真2 生育後期に発生する葉鞘部の腐敗症状

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>